

ロシアとウクライナの戦争を 通して 日本人に伝えたいこと

2024年10月31日

公益社団法人日本女医会

第17回ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム

株式会社ゲンロン

上田洋子

自己紹介

- 株式会社ゲンロン代表

雑誌『ゲンロン』／トークイベントスペース「ゲンロンカフェ」

動画プラットフォーム「シラス」など運営

- ロシアおよび旧ソ連・東欧地域の文化を研究
- ロシア語通訳・翻訳



ゲンロンとウクライナ

- 2013年、観光が始まっていたチェルノブイリ立入制限区域を取材。『チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド』出版
- 同年から2018年まで、一般観光客を連れて一般向けのチェルノブイリのスタディツアーを5回実施（HIS主催）
- 2023年、戦時下のキーウとリヴィウで取材。『ゲンロン16』にまとめる



チェルノブイリは生きている

- ・ 戦争前、チェルノブイリ立入制限区域は観光客が増加していた。
- ・ 野生動物や希少種の植物も多い。
- ・ そこで働く人々にとって、チェルノブイリは日常であり生活の場である。
- ・ 何回も訪れているわたしたちにとっても親しい空間となる。
- ・ 戦争直前、立入制限区域でウクライナ軍の軍事演習、数日後にロシア軍が侵攻し、原発を占拠



2023年11月にみたウクライナ

キーウ 中心部の様子

独立広場



キーウ中心部の様子

マリウポリに関するパネル群
鹵獲した戦車や戦場で攻撃を受けた車、
亡くなった軍人たちのポートレートなど、
戦争が街の日常に挟み込まれている



キーウ市内の 爆撃跡

地下鉄ルキヤニフカ駅のそばの軍需品を扱う工場。この後も爆撃にあっている



戦争のなかの日常

（両親の家のあたりにミサイルが落ちて）庭に破片が落ちていたと、父が写真を送ってくれました。[……] みんなロケットの写真や被害の写真撮っていて、会うとそれを見せあったり、SNSで送りあったりしていたそうです。わたしのところにもどんどん届きました。[……] ショックのなかで、それがちょっとした気晴らしになっていたみたいです。

「「戦争が始まった朝はどうすればいいのかわからなかった」ーキーウ市民へのインタビュー」（『ゲンロン16』）より

戦争のなかの日常

発電所の近くを歩いているときに、そこが攻撃されたことがあります。
自分の頭上をミサイルが飛んでいったわけで、巻き込まれた可能性が大いにあった。でも、ニュースを見てもなかなか意識がついていかなくて……。

「「戦争が始まった朝はどうすればいいのかわからなかった」ーキーウ市民へのインタビュー」（『ゲンロン16』）より

→戦時下では「ふつうの日常」は失われてしまう

女性医療関係者の動員

ウクライナの状況

医学教育を受ける女性や医療分野で働く女性は軍隊への登録を義務づけ

→内科医、外科医、看護師、理学療法士、薬剤師、バイオテクノロジーなど

2024/5/18改正動員法に際して、再度の登録更新を促す

- ・外国旅行は可能
- ・強制動員はできず、自発的な同意が必要

<https://www.unian.ua/society/mobilizaciya-zhenshchin-2024-cto-izmenitsya-s-novym-zakonom-12622473.html>

※ ウクライナでは総動員令が出されており、18歳から60歳の男性は動員の可能性があるため、特別な許可がない限り国外に出られない（徴兵のがある）

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240518/k10014453661000.html>



日本語でもウクライナの女性医療従事者に関する報道がある。毎日新聞、2023/09/09
<https://mainichi.jp/articles/20230909/k00/00m/030/124000c>

ロシアの状況

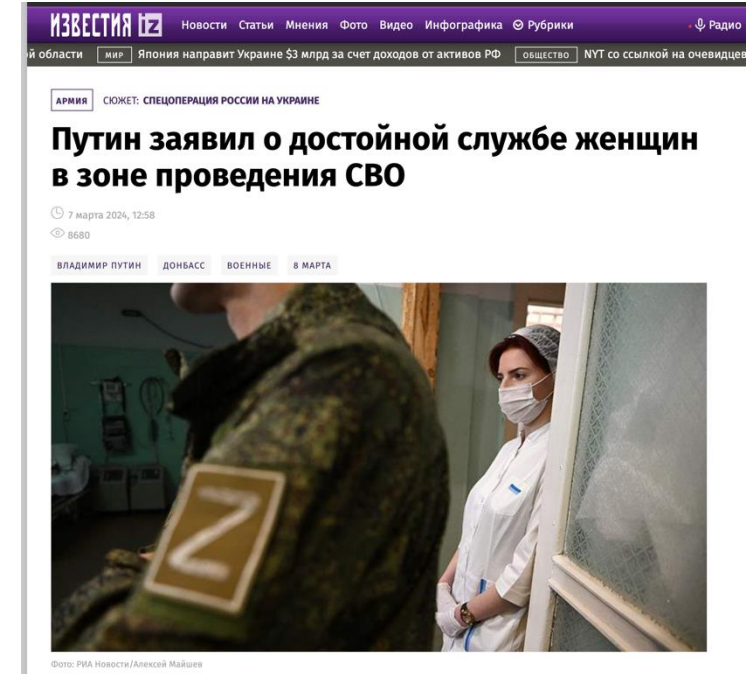
女性医療従事者（防疫、X線技師、内科医、整形外科医、薬剤師、看護師ら）は軍事登録の対象となる。

ただし、2022年秋、ロシアで部分動員が行われた際に、国防省は女性はこの部分動員の対象にならず、今後もその予定はないと発表。<https://ria.ru/20221019/mobilizatsiya-1825087089.html>

ただ、当初、女性は志願兵も取らないとしていたが、現在は志願者の活躍を紹介する記事は政府よりのメディアから出されている。

<https://iz.ru/1479631/sergei-prudnikov/tcvety-na-fronte-eto-kak-luch-sveta>

※ ロシアは現在総動員ではなく部分動員がかけられている



プーチン大統領が「特別軍事作戦」領域での女性の活躍を讃えたという国際婦人デー前日のニュース。

イズヴェスチヤ紙。

2024/03/07

<https://iz.ru/1661580/2024-03-07/putin-zaiavil-o-dostoinoi-sluzhbe-zhenshchin-v-zone-provedeniia-svo>

[参考] ロシアとウクライナの女性医師

女性医師の割合

ロシア：70%（2020年）、ウクライナ：61%（2014年）。EU：50.9%

（2020年）WHO、European Health Information Gateway より

https://gateway.euro.who.int/en/indicators/hlthres_137-of-physicians-by-sex-all-ages/#id=31564

医師の平均月給

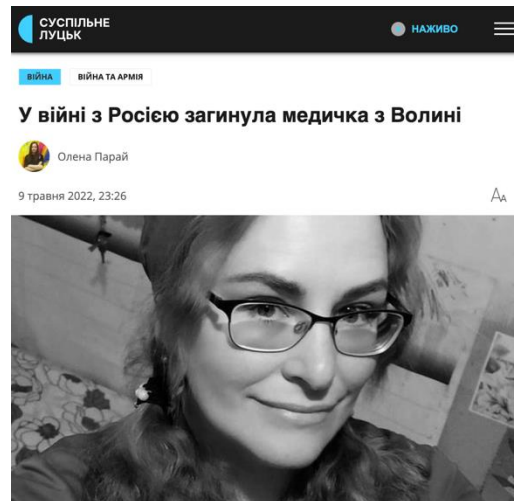
ロシア：121,300ルーブル（約191,500円、2024年上半期）

<https://ria.ru/20240825/zarplaty-1968314197.html>、ウクライナ：61,000フリブニャ（約

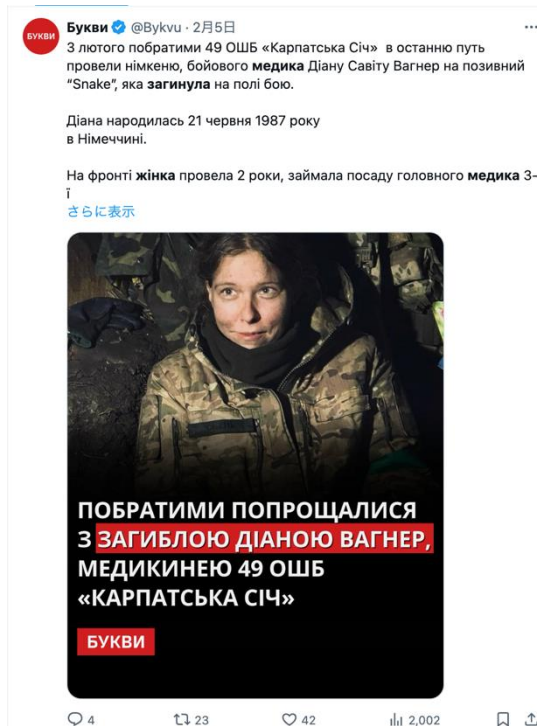
96,000円、2024年10月時点） <https://www.work.ua/salary-лікар+загальної+практики/?setlp=ua>

亡くなった女性医療従事者たち

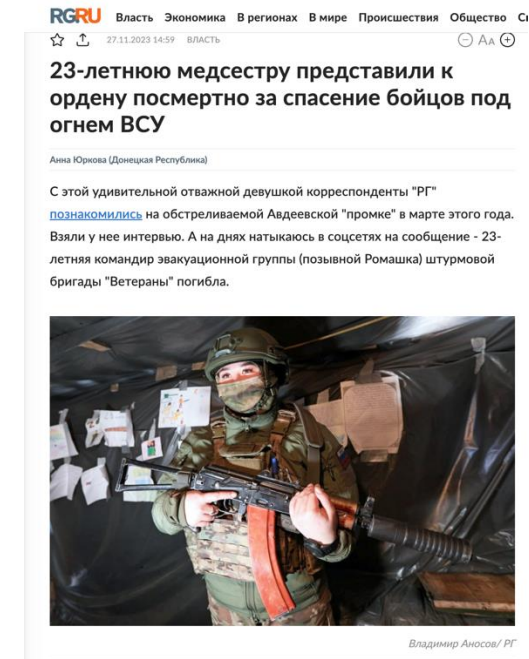
現在、ウクライナ、ロシアの両軍ともに正確な死者数を明らかにしておらず、そのうちの女性の割合も不明。



<https://suspilne.media/lutsk/237652-u-vijni-z-rosieiu-zaginula-medicka-z-volini/>



<https://x.com/Bykvu/status/1754196016348139927>



<https://rg.ru/2023/11/22/23-letniuiu-medsestru-za-spasenie-bojcov-pod-ognem-vsu-predstavili-k-ordenu-posmertno.html>

※ ウクライナ国防省によると、同国の軍における女性の数は約7万人（2024年1月）、うち4万7000人が軍人。うち6500人が管理職。4000人が前線にいる。 <https://www.mil.gov.ua/news/2024/05/01/kilkist-zhinok-v-armii/>

ウクライナにおけるフェミニズムと女性軍人

国際的なフェミニズムや女性運動がとっている伝統的な反戦の立場 [……] とは異なり、マイダン革命後のウクライナのフェミニズムでは、軍国主義的言説が高まっている。戦争は非難されるだけでなく、現代政治の合法的な要素であるとみなされている。この言説からすると、ウクライナでのジェンダーバランスを求める闘いのおもな成果は、ウクライナ国防省がソヴィエト時代の過去と同様、女性軍人が戦闘行為に関与する職に任命されることを許容したことだ。

この軍国主義の立場を代表するのは「ジェンダー問題研究所」や「民主主義発展センター」などのウクライナの女性NPOなどである [……]

イリーナ・ジェレプキナ／セルゲイ・ジェレプキン 『サイボーグ・ナショナリズム』、2019年、253頁。Жеребкина И., Жеребкин С. Киборг-национализм. СПб. 2019, с. 253.

映画で見るウクライナ戦争

『マリウポリの20日間』

ミスティスラフ・チェルノフ監督、2023年、米国アカデミー賞長編ドキュメンタリー賞受賞 <https://synca.jp/film/938/>

SYNCA

ABOUT

FILMS

SPORTS

STORE



この惨劇を世界に伝えてくれ

マリウポリの 20日間

20 DAYS
IN MARIUPOL

20 Days in Mariupol

4月26日(金) TOHOシネマズ日比谷ほか 全国緊急公開

この惨劇を世界に伝えてくれ——。

第96回アカデミー賞 長編ドキュメンタリー賞受賞

2022年2月、ロシアがウクライナ東部マリウポリへ侵攻開始。
戦火に晒された人々の惨状をAP通信取材班が命をかけて撮影を敢行し、
決死の脱出劇の末、世界へと発信された奇跡の記録映像

▶ WATCH NOW

▶ PLAY TRAILER

▶ THEATERS

爆撃を受けるマリウポリ
の医療現場の状況がカメラ
に捉えられている

LINKS

『マリウポリ7日間の記録』

マンタス・クヴェダラヴィチウス監督、
2022年 <https://www.odessa-e.co.jp/mariupoli7days/>



開戦直後のマリウポリの
ある避難所の記録



おわりに

七十数年のあいだに「……」一種独特の人間のタイプ、「ホモ・ソヴィエチクス」が作り出された。「……」その人はわたしのよく知っている人、わたしはその人のすぐそばにいて、多くの年月をとなりあって生きてきた。その人——それはわたし。わたしの知人たち、友人たち、親たちなのだ。数年間、わたしは旧ソ連のあちこちをまわっていた。というのは、ホモ・ソヴィエチクス、それはロシア人だけでなく、ベラルーシ人、トルクメン人、ウクライナ人、カザフ人でもあるのだから。「……」

ソヴィエト文明……。その痕跡を、よく知っている顔を、記憶にのこしておこうとあせっている。ふつうの人生がいかにおもしろいか、わたしは飽きもせずに驚いている。無限の数の人間の真実……。歴史が関心をもつのは事実のみで、感情は相手にされない。歴史には感情をはさまないことになっている。わたしは、歴史家の目ではなく、作家の目で世界をながめている。人間というものに驚かされている。

スヴェトラナ・アレクシエヴィッチ

『セカンドハンドの時代』 松本妙子訳、岩波書店より